

遠藤周作学会 会報

第 20 号

2025 年 10 月 18 日

発行 遠藤周作学会

代表 山根道公

二〇二五年度遠藤周作学会
国際学術交流研究発表会

総会報告
事務局より

◇二〇二五年度遠藤周作学会

国際学術交流研究発表会

二日後に周作忌を控えた九月二七日（土）、日本・アメリカ・韓国・中国を結んでオンライン学術交流会が開催された。大会は二部で構成され、十時に始まった一部は国際学術交流会、昼休みを挟んで十三時からの二部は研究発表であった。進行役はノートルダム清心女子大学の山根道公氏と長崎純心大学の池田静香氏が務められた。交流会に先立ち山根代表より、遠藤周作学会初代代表である笠井秋生が逝去され、『遠藤周作研究』第十八号（最新号）で、そのご功績への感謝が追悼文として掲載されている旨、報告された。

プログラム

【国際学術交流】

- ・ 特別顧問ヴァン・C・ゲッセル
（ブリガム・ヤング大学名誉教授）挨拶
- ・ 遠藤周作文学館（林田沙緒里学芸員）より企画展紹介
- ・ 李平春（韓国・明知大学客員教授）に聞く（聞き手・山根道公代表）
- ・ オンライン交流

【研究発表会】

- ① 初期の遠藤文学における実存的芸術観

―「堀辰雄覚書」から『青い小さな葡萄』まで―

ノートルダム清心女子大学大学院 葛 欣怡

司会 九州女子大学 古浦 修子

② 文化アイデンティティのゆらぎ

—『沈黙』におけるトポスの移行を中心に—

立命館大学大学院 王 思佳

司会 京都外国語大学 長濱 拓磨

③ 遠藤周作『沈黙』論

—ロドリゴとフェレイラの融合—

慶應義塾大学文学部通信教育課程 藤井 由雄

司会 星美学園短期大学 武田 秀美

国際学術交流の一人目の発表者、ヴァン・C・ゲッセル氏は、「影に対して」が収録された新刊書 *Portraits of a Mother* (『母の肖像』) を紹介された。遠藤の短編では、母への思いがイエスとの関係に結び付けられることが多いが、「影に対して」は父親との関係が主軸をなしている。そこで、「対して」をどのように訳せばよいか熟考を重ねて「向き合う」という意味に捉え、フロントと訳された。

次に、林田沙緒里氏より、遠藤周作文学館の企画展が紹介された。遠藤は、純文学を執筆しつつ、ユーモアにあふれたもう一人の自分を「狐狸庵」と呼んでいる。「狐狸庵」の原点は、中学生の時に読んだ『東海道中膝栗毛』

で、遠藤は戦争など直面する現実を、弥次喜多のようにもの悲しさを秘めながらおどける、もう一人の自己に投影したと述べ、「狐狸庵」を名のすることで読者との間を縮めようと思ったのではないかと林田氏は解説された。最後の李平春氏は、遠藤作品を韓国語に翻訳されてきたのみならず、五〇年間に及ぶ遠藤の作家人生を模索した『遠藤周作研究—神と人間の文学』(二〇二五年三月)を上梓された。韓国では遠藤の生誕一〇〇年(二〇二三年)に際し、『沈黙』と遠藤の生涯が韓国カトリック放送局で放映された。李氏は、韓国では純文学を執筆した遠藤のイメージが先行しているので、これからは「狐狸庵」のおどけの面を紹介したいと結ばれた。

第二部では三本の研究発表が行われた。意欲的な発表で、今後、論文にまとめられることを期待したい。全国大会が二〇二六年三月二十八日(土)に京都外国語大学で行われる。「皆様に対面でお目にかかれるのを楽しみにしています」という山根代表の言葉で国際学術交流研究発表会は幕を閉じた。時差があるにもかかわらず、海を越えて多くの参加者と有意義な研究会が行われた。今後、さらなる海外研究者との交流が望まれる。

(香川雅子・記)

◇ 事務局より

▼二〇二五年度遠藤周作学会・国際学術交流研究発表会は、オンラインで行われました。年度移行に伴い、二〇二五年度全国大会は二〇二六年三月に開催されることになりましたが、その間の会員同士の交流や情報交換、若手研究者の研究発表の場の確保といった理由から、この国際学術交流研究発表会は企画されました。当日は、午前三十九名、午後二十九名が参加し盛会となりました。

▼今回の研究発表会では、これから修士論文や博士論文の提出を目指す二名の大学院生及び卒業論文を基にした社会人学生一人の発表が行われました。遠藤文学研究の次の担い手たちの活躍が今後も期待されます。充実した内容が、機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

▼年度移行により、機関誌『遠藤周作研究』の発行時期が変わります。第十九号は、二〇二七年二月発行を予定しております。投稿論文の執筆者募集は、二〇二六年四月頃に事務局からメールでご案内します。二〇二六年三月に改訂される投稿規定をご覧ください。会員の方々の意

欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼次回の大会は、京都外国語大学にて行われます（次ページにアクセス紹介）。

第三回目となりますシンポジウムは、一九五〇年代後半から一九六〇年前半を対象とし、人々の苦しみや悲しみに寄り添う同伴者の追求をテーマにして純文学・中間小説・エッセイなど幅広い作品ジャンルに目を向けた企画を行う予定です。

また、キリスト教史をご専門に遠藤周作にも関心をもつ会場のインド人の先生によるご講演も企画中です。多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、次号より、香川雅子氏が担当されます。遠藤周作に関する会員の方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、香川氏に直接お知らせください

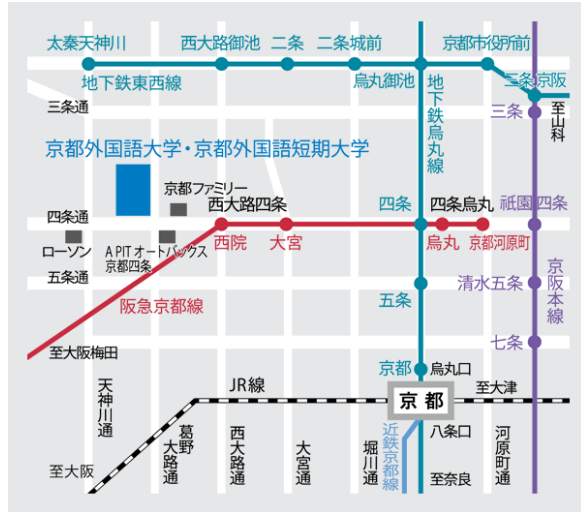
(Eメール: tms-kagawa@xa2.so-net.ne.jp)。

また、これまでの参考文献目録について遺漏のある場合も、ご連絡をお願いします。

2025 年度全国大会会場校 京都外国語大学

所在地：〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6

TEL：075-322-6012



(京都外国語大学ホームページより借用)

▼遠藤周作学会会報第二〇号の発行と発送をもちまして、事務局長が長崎純心大学の池田静香氏に交替となります。

なお、会計は九州女子大学の古浦が引き続き担当いたします。新事務局の連絡先は左記のとおりです。

(文責 旧事務局長 古浦修子)

遠藤周作学会 事務局

〒852-8558

長崎県長崎市三ツ山町 235

長崎純心大学 池田静香研究室内

TEL 095-846-0084 (代表)

Eメール sikedan@n-junshin.ac.jp